

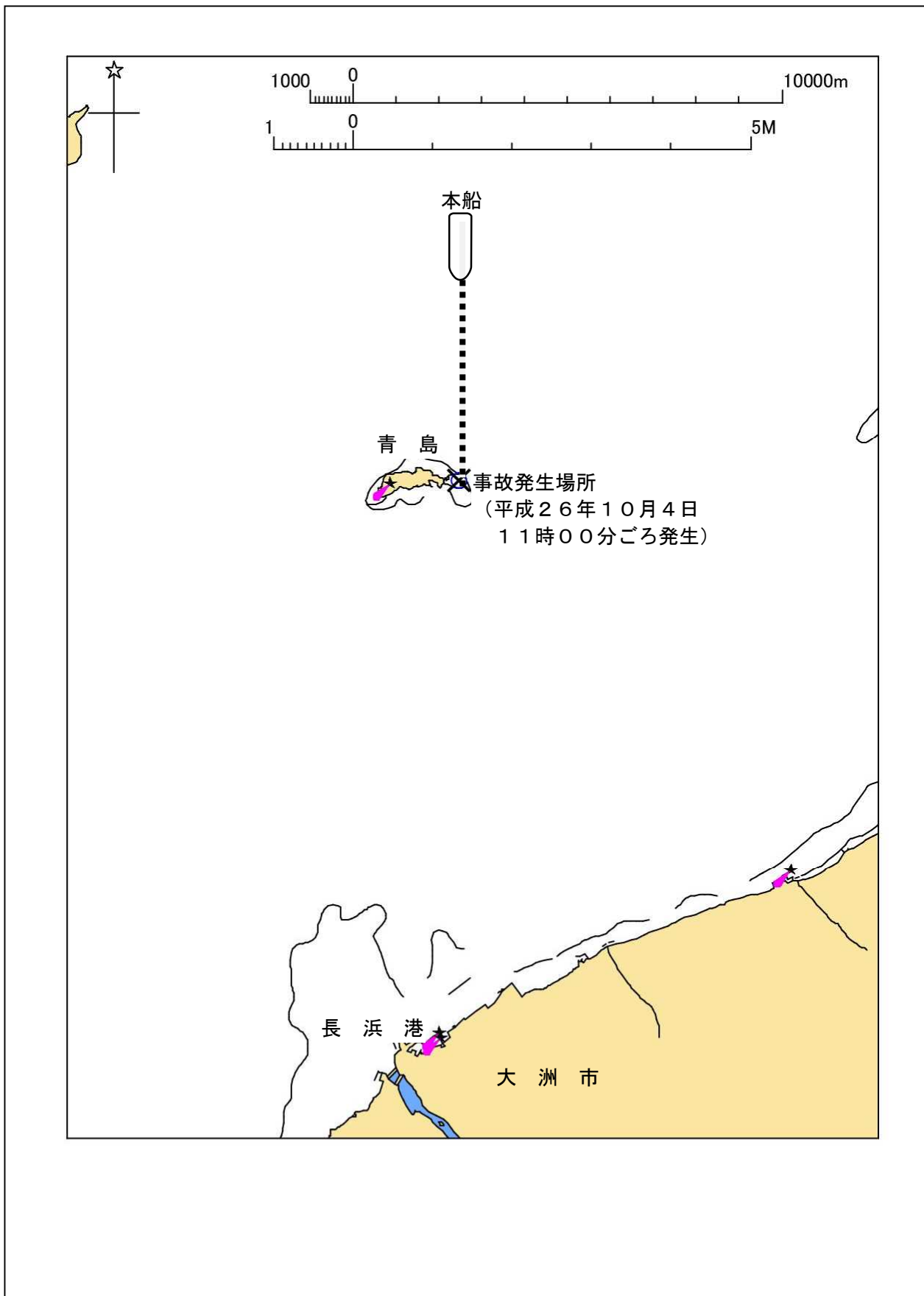
## 船舶事故調査報告書

平成27年5月21日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）  
 委員 小須田 敏  
 委員 根 本 美 奈

|  |  |
|--|--|
| 事故種類   | 乗揚   |
| 発生日時   | 平成26年10月4日 11時00分ごろ  |
| 発生場所   | 愛媛県大洲市青島東岸沖<br>伊予青島灯台から真方位089° 1,650m付近<br>（概位 北緯33°44.15′ 東経132°29.70′）   |
| 事故調査の経過  | 平成26年12月4日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。<br>原因関係者から意見聴取を行った。   |
| <b>事実情報</b><br>船種船名、総トン数<br>船舶番号、船舶所有者等<br>L×B×D、船質<br>機関、出力、進水等 | 砂利採取運搬船 灘吉丸、483トン<br>130375、小松海運有限会社<br>65.04m×13.00m×6.50m、鋼<br>ディーゼル機関、735kW、昭和63年7月11日  |
| 乗組員等に関する情報   | 船長 男性 48歳<br>五級海技士（航海）<br>免許年月日 平成4年8月19日<br>免状交付年月日 平成25年3月5日<br>免状有効期間満了日 平成30年3月4日<br>甲板員 男性 60歳<br>四級海技士（航海）<br>免許年月日 平成9年9月2日<br>免状交付年月日 平成24年5月8日<br>免状有効期間満了日 平成29年9月1日   |
| 死傷者等   | なし   |
| 損傷   | 船底部に凹損及び擦過傷、プロペラに曲損  |
| 事故の経過  | 本船は、船長及び甲板員ほか2人が乗り組み、甲板員が単独の船橋当直につき、青島北北東方沖を約8ノット（kn）の対地速力で自動操舵により南進した。<br>甲板員は、GPSプロッターに表示させた予定コースラインよりも青島東岸寄りを航行しており、更に接近して同島東岸から約300m離れて航行する態勢であることに気付いたが、陸岸から離れて航行するので、本船が安全に航行できる水深があると思って航行を続けた。<br>本船は、平成26年10月4日11時00分ごろ青島東岸沖に拡張 |

|   |   |
|---|---|
|   | <p>する浅瀬に乗り揚げ、同浅瀬を乗り切った。</p> <p>船長は、自室で休息中、乗揚の衝撃を感じ、すぐに昇橋して浸水の無いことを乗組員に確認させ、入港予定の大洲市長浜港に向かい着岸した。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図1、付図2 事故発生経過概略図2 参照)</p>                                   |
| 気象・海象   | <p>気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 6</p> <p>海象：潮汐 低潮時、潮高 約1m、潮流 南西流約1kn</p> <p>大洲市には4日04時30分に強風注意報が発表され、本事故時も継続中であった。</p>   |
| その他の事項  | <p>本船は、空船で、喫水が船首約1.0m、船尾約3.0mであった。</p> <p>甲板員は、3海里レンジとしたレーダーを作動させていた。</p> <p>本船の予定コースラインは、青島東方沖約1,000mを航行するものであった。</p> <p>甲板員は、海図や潮汐を調べていなかった。</p>                              |
| <b>分析</b><br>乗組員等の関与<br>船体・機関等の関与<br>気象・海象等の関与<br>判明した事項の解析 | <p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、青島北北東方沖を風潮流により南西方に圧流されながら南進中、甲板員が、青島東岸沖に浅瀬があることを知らなかったことから、青島東岸から約300m離れて航行するので、本船が安全に航行できる水深があると思い、青島東岸沖の浅瀬に向けて航行し、同浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。</p> |
| <b>原因</b>   | <p>本事故は、本船が、青島北北東方沖を風潮流により南西方に圧流されながら南進中、甲板員が、青島東岸沖に浅瀬があることを知らなかったため、青島東岸から約300m離れて航行するので、本船が安全に航行できる水深があると思い、青島東岸沖の浅瀬に向けて航行し、同浅瀬に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>                   |
| <b>参考</b>   | <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海図やGPSプロッターを活用して航行経路及びその周辺の水深を確認しておくこと。</li> </ul>  |

付図1 事故発生経過概略図1



付図2 事故発生経過概略図2

